

産業の持続化対策 に関する提言書

令和7年3月
喜多方市議会産業建設常任委員会

目 次

はじめに	．．． 2
1 現状と課題	．．． 3
2 意見交換会における課題の抽出	．．． 4
3 調査・研究の概要	．．． 5
4 産業の持続化対策に係る意見	．．． 7
おわりに	．．． 8
(付録)	
1 取組経過	．．． 9
2 意見交換会において出された意見	．．． 10

はじめに

現代経済における産業については、技術革新とグローバル化が鍵となり、持続可能な発展が求められています。デジタル化による効率向上や新たな市場創出、環境への配慮も不可欠です。2015年の持続可能な開発目標（SDGs）の採択以降、消費者は「エシカル消費」のように、社会課題の解決に関心を示すようになりました。人口減少が進む現状を踏まえながら、多様な人材の活用、技術革新、環境保護や地域社会との連携強化により、産業構造を変革していく必要性が生じています。

本市産業は、半数以上を占めていた農業人口は減少し、製造業の就業人口が増加傾向にあります。一方、古くから清らかな水と良質な米を原料とした酒・味噌・醤油等の醸造業が盛んです。さらに、グリーンアスパラガス、キュウリ、ミニトマト、そばの産地形成も図られています。蔵とラーメンと日本そばのまちとして、また漆器や桐材加工等の伝統文化があり、観光と結びつきが強い観光関連産業が広がりを見せています。少子高齢化による農林業の担い手不足、伝統産業の縮小、商業地の空洞化が進んでいるこれらのことを踏まえ、産業の持続化をテーマに調査・研究を行い、意見交換会や先進地視察を実施しました。

本提言書は、それらの成果を踏まえ、本市が地域の特性に合った政策を行うように、また、産業の持続化に結びつけるために提言するものです。

1 現状と課題

本市は、農業、製造業、観光業を中心に発展してきましたが、少子高齢化や産業の衰退が進んでいます。特に、農業の担い手不足、伝統産業の縮小、商業地の空洞化が大きな課題です。一方で、観光資源の豊かさを生かし、農業の6次産業化や体験型観光を強化することで、地域経済の活性化が期待されます。持続可能な産業構造を築くためには、交通インフラの整備、若年層の定住促進、地域資源の活用が不可欠です。

現状の施策は、平成29年度策定の総合計画を軸とし、令和8年度まで10年間の計画期間の中で、各分野において、「力強い産業 人が輝く 活力満ちる安心・快適なまち」に向けた取組を実施しています。令和6年5月にはオーガニックビレッジ宣言を行い、主要産業でもある農業の持続を目指し、環境配慮型農業を優先しています。さらに、喜多方ラーメン課・そば課が新設され、ブランディングによる観光誘客事業にも取り組んでいます。また、市内ものづくり企業の生産現場の見学を行い、将来的な就職先として認識され、市内企業及び地域の人材確保に繋げることを目的としたオープンファクトリーの取組を開始しました。しかし、人口の構造的な不足化現象等により、持続可能な地域社会を構築していくための人手が依然として足りない課題に面しています。

有効求人倍率(原数値)の推移



4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
出所:福島労働局「最近の雇用失業情勢」を基にハローワーク情報サイトが作成したハローワーク喜多方の有効求人倍率 (<https://www.hwiroha.com/area/Fukushima/Kitakata.html>)

2 意見交換会における課題の抽出

(1) 農業

農業の継続問題、農業の担い手不足と高齢化、収益性の問題、ブランド化と販路拡大、オーガニック農業の推進、農業法人化の課題

(2) 産業・雇用

担い手の不足、伝統産業の衰退、若者が望む新規産業の推進、起業支援の充実

(3) 観光

地元住民の関心の低下、観光資源の活用不足、宿泊施設の不足、グリーンツーリズムの推進

(4) 喜多方ラーメン・そばと地元食材

ラーメン店の減少と後継者不足、地元食材の活用不足、ラーメン観光の限界、価格問題

(5) インフラと行政

インフラの整備不足、空き施設の活用、行政の施策不足

(6) 地域活性化のための提案

農業の収益性向上、企業誘致と雇用創出、観光の多角化、若者の定住支援、情報発信の強化

産業の持続化対策をとる上では、農業・工業・観光・行政の各分野で様々な課題があるため、総合的な戦略と具体的な施策が求められています。

3 調査・研究の概要

先進地視察

(1) 高知県高知市

高知市は、中心市街地活性化基本計画を策定し、中心市街地の現状分析、第二期計画の実施状況と取組評価、中心市街地活性化の課題を整理し、基本方針を「暮らしたいまち・働きたいまちの実現」、「訪れたいくなるきっかけづくり・滞在したくなる仕組みづくり」としています。特に数値目標では、中心市街地の居住人口、社会増減数、商店街の営業店舗数、新規出店数、歩行者通行量、空き店舗率、拠点施設入館者数、宿泊者数ごとにきめ細かな設定をしています。さらに、インバウンド観光を推進するために、高知市単体の活動では限界があると分析、全ての市町村が含まれた連携中枢都市圏の仕組みを使い、観光案内所を構え、外国語対応スタッフを配置しています。観光パンフレットに関しては、海外の大型客船が停泊する際、その度に全部配ると割に合わないため、紙からデジタル主体の、例えばQRコードだけ置いてそれを見ていただくような方法を検討しています。商店街の店舗がイベント時期に合わせて、海外の方が求められるものをピンポイントで提供していくためには、それぞれの店のやる気が課題であると分析しています。

(2) 北海道北広島市 KUBOTA AGRI FRONT

KUBOTA AGRI FRONTは、「“食と農業”の未来を志向する仲間づくりの場」をコンセプトとした農業学習施設です。子どもから大人まであらゆる人が、食と農業の未来を考えるきっかけとなる場所を目指しています。テックラボにおいて、自律走行型の農業散布ロボットによる作業（栽培野菜：トマト、いちご、アスパラガス、レタス）や、密閉型栽培装置と搬送ロボットによる人工光型植物工場の作物栽培といった最先端農業技術を見学しました。

人口減少時代のICTを使ったこのような施設には、莫大な資金力が必要であることを踏まえると、本市においてICTを農業にどのように、どこで、何に活用するのか、スマート農業が叫ばれている現在、考えていくことが不可欠です。

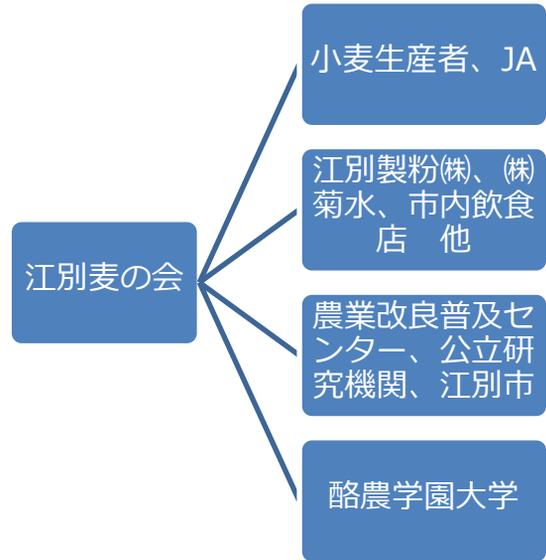
(3) 北海道江別市

江別市は、札幌に近い都市近郊型農業で、主な生産物が水稲、小麦、大豆、野菜類、酪農といった多様な生産形態で発展してきましたが、近年では露地野菜で代表的なのがブロッコリーとレタスが道内でも有数の出荷量を誇っています。

さらに、幻の小麦「ハルユタカ」の一大産地ということで、産官学連携し生産者やJA、大学、行政機関、民間企業である製粉会社・製麺会社などが集まり、それぞれの分野で情報交換、商品開発を行い、小麦の消費拡大や、地場農産品のPRを進めています。

江別市都市と農村の交流センター「えみくる」は、「江別市の地域資源を活用して、都市と農村の交流を促進する」及び「農業者の健康と福祉の増進を図る」という2つの目的を軸とし建設されました。自主事業であるイベント事業で年間利用者数を伸ばしており、体育室と野球場、多目的広場の利用者数が大幅に伸びている点が特徴です。テストキッチンでは、試作品、テスト販売のための加工品づくりが可能な調理器具が

そろっており、商品の販売に必要な保健所の営業許可も取得可能です。これまでに18件が営業許可を取得している実績があり、ここでは、指定管理者が主体的に活動し、年間利用者数を伸ばしています。事業収入の伸びと利用者数の伸びは比例しませんが、交流センターの働きは一定の評価を得ています。



小麦を中心としたネットワーク



6次産業化に取り組む農業者や中小企業による試作品製造などが可能なテストキッチン

4 産業の持続化対策に係る意見（政策提言）

(1) デジタル技術の導入

深刻な担い手不足や後継者不足による収益性の低下を解消するために、デジタル化・ICTの活用により効率化及び生産性の向上を図ること。

(2) 創業継続支援

創業支援の充実や企業誘致により新規産業の推進を図ること。また、現行事業者等への継続的な支援に取り組むこと。

(3) 安定した収益確保と6次産業化の推進

農畜産物を安定して供給するために、生産コストの上昇を踏まえた適正な価格の設定を確立すること。また、食と農に関する連携を強化し、地場農産物を加工した商品のプロデュースやマーケティング戦略を図ること。

(4) 観光業におけるデジタル技術の活用と広域圏の連携

QRコードを活用したデジタル観光パンフレットの導入を推進し、観光案内をより効率的に行うこと。また、市単体の取組だけでなく喜多方地方広域市町村圏内及び周辺の市町村と連携した観光振興策を進め、広域的な観光誘客を実現し、地域全体の活性化を図ること。

(5) インフラ整備の充実強化

災害復旧に対する支援の充実強化を図ること。そのために専門職員の育成を強化すること。また、将来の災害に備え、原形復旧にとどまらず改良復旧を積極的に推進すること。

おわりに

この2年間の産業建設常任委員会の調査テーマの一つに「産業の持続化対策」を掲げました。具体的には、先進地視察（高知市、北広島市、江別市）や市内管工事協同組合との意見交換会を実施し、デジタル技術の導入、創業継続支援、安定した収益確保と6次産業化の推進、観光業におけるデジタル技術の活用と広域圏の連携、インフラ整備の充実強化について政策提言を行いました。

政策提言を具現化するためには、各産業に関わる様々な業種の方々とのきめ細やかな意見交換や異業種間の交流が不可欠です。地域全体で協力し合い、持続可能な産業を築くことが求められます。これらの努力が地域の未来に大きく貢献することを期待しています。

(付録)

1 取組経過

年月日	調査・取組内容等
令和5年	【政策提言に係る協議】／市内
6月12日	政策テーマの決定
	【所管事務調査】／市内
	山都町一ノ木及び早稲谷地区の災害復旧現場視察
7月4日	【政策課題に係る協議】／市内
	行政視察の行程等について
7月19日	【行政視察】／高知県
～21日	1 エフビットファームこうち株式会社(7/19)(本山町) 木質バイオマス発電所と次世代園芸ハウス(パプリカ栽培)
	2 いの町(7/20) 森林整備事業の取組について
	3 高知市(7/21) 高知市中心市街地活性化基本計画について
9月19日	【所管事務調査】／市内
	豊川・慶徳線現地視察
10月18日	【意見交換会】／市内
	喜多方市管工事協同組合
10月20日	【意見交換会】／市内
21日	市民と議会の意見交換会
令和6年	【政策課題に係る協議】／市内
6月6日	意見交換会における意見の整理と今後の進め方について
	行政視察の行程等について
6月17日	【政策課題に係る協議】／市内
	意見交換会に係る協議
	これまでの政策提言取組状況検証の進め方について
7月10日	【行政視察】／北海道
～12日	1 農業学習施設KUBOTA AGRI FRONT(7/10)(北広島市) 農業学習施設KUBOTA AGRI FRONTについて
	2 合同会社Hikobayu(7/11)(ニセコ町) 自伐型林業の取組について
	3 江別市(7/12) 都市と農村の交流センターえみくるについて
7月26日	【意見交換会】／市内
27日	市民と議会の意見交換会
10月21日	【市当局との協議】／市内
	これまでの政策提言取組状況検証
12月20日	【意見交換会】／市内
	喜多方市管工事協同組合
令和7年	【政策課題に係る協議】／市内
3月3日	政策提言に係る内容の検討について
3月7日	【政策課題に係る協議】／市内
	政策提言に係る内容の確認及び決定について

2 意見交換会において出された意見

- ・ サラリーマンの立場であるが、周りをみると集約農家が目立つ。農業を継続するの難しいか2つに分かれている。補助金目的で田植えまでするがその後はやらない。
- ・ さまざまな物価の高騰でどの業界も大変。持続化の課題では、小中学校での教育が必要と感じる。法人化して雇用が生まれるが、給料体制が明確に見えてこない（農業関係）
- ・ 観光については、それぞれの地域で地元の方から関心が薄れているように思える。地元で愛されるイベントを行うと、地元の高齢者から子どもまで参加すると思う。
- ・ 働く場所が少ないから、若者は地元を離れてしまう。働く場所を構築して欲しい。
- ・ 宿泊場所がないのも問題。
- ・ 伝統産業である漆器業も斜陽化している。活性化の方策が必要ではないか。
- ・ 山間部に暮らしているが、人手不足や住民の高齢化が進んでいる。平地では新規就農者が今後期待されるが、山間部では新規就農者が期待されない(難しい)。交流人口を今後増やしていく必要がある。様々な外部団体との交流をおこなえる機会を増やして、人手不足の解消に繋げる施策をおこなってもらいたい。
- ・ 観光と農業を結びつける事業(グリーンツーリズム)を活発におこない、その中で参加者と地区の方々との共同作業で信頼関係が生まれ、農業に興味を持ちここに住んでみたいなど思えるような形にしたいと思っている。各コミュニティを持つことが大事であり、まず喜多方市内の団体での情報共有、意見交換などおこない、その中で整理してお互い協力しながら市外・県外へ情報発信をおこなうなど体制作りが必要と思う。またその活動で、地域の方々への負担をなるべく掛からないように進めていく必要がある。
- ・ 本市では、環境にやさしい農業を目指し、オーガニックビレッジや、各種支援など取り組んでいるが、その取組で「地域おこし協力隊」の参加も考えて欲しい。
- ・ 会津農林高等学校耶麻校舎の今後の利活用について、農業高校跡地であるならば、農業に特化した専門学校や訓練校などの利活用など、地域産業の持続化できるような施設として今後に繋げて欲しい。
- ・ 国の食料自給率が悪い中、農業が見直されていると思うが、国もそうだが現場を見ていない。農業で生活できないから農業から離れてしまっている。儲かる農業をできれば今後農業従事者が増えていくと思う。また農産物の出荷を地元、県外だけにとらわれず海外に向けておこなって欲しい。
- ・ 喜多方の特産物をつくるのが大事。ラーメン・そばなどあるが、地元の方が生産に多く関わり、多くの市民が利益につながるような物産をつくって欲しい。目先の事だけでなく、将来の事を見据え視点を変えて行動して欲しい。
- ・ 市の所有する観光駐車場や、職員駐車場の休日活用を考えて欲しい。各イベントなど開催し、出店など小規模な祭の開催など(市民が集まれる場所)おこなって欲しい。
- ・ しだれ桜などで観光客は、増えている。今後も増えていく可能性があるが、しだれ桜の観光客、ラーメンの観光客は、本市のお土産は何を購入しているか調査した事があるか？
- ・ 今後、起業を考えている。宿泊業で再生可能エネルギーを使用して、地元食材をふんだんに使用した食事の提供などおこない、地元を盛り上げたいと考えている。
- ・ 喜多方ラーメンを芸能人がある店に食べにきてTVで放送され、放送日以降から店が大変混雑していた。それに伴い、営業時間が短くなってしまった。店は売上が上がるのは良いことと思うが、利用していた地元の方々が来店できなくなってしまう事が少し悲しく思ってしまう。
- ・ 新規産業の推進をして欲しい。
- ・ 若者たちが事業を展開できるよう空き施設をどんどん提供して欲しい。

- ・ 空き施設を利用して子どもたちがものづくりに興味を持ち自分の作った物で遊べる場所を提供して欲しい。例えば、プラモデルや模型など。
- ・ 喜多方ラーメン屋がなぜやめてしまうのか。
- ・ 日光には観光客がたくさん来ている。若松にも来ているが喜多方に来ないのは、来たいと思うインパクトがない。
- ・ オーガニックビレッジの取組は、東京のコンサルタント会社に丸投げし、データだけを得られているように見える。耕作者の意見を聴き取るような取組も必要ではないか。
- ・ 伝統産業である漆器業も斜陽化している。活性化の方策が必要ではないか。
- ・ 田植えや稲刈りの時期に帰ってきてしばらく農作業に従事していく方々がいる。それらの方々を関係人口と呼んでいる。それらの方々を増やすことが大切だ。新たな皆さんが訪れて新しい雰囲気が出る。地域おこし協力隊がそうだし、福島大のゼミの皆さんと交流している。彼らがいずれこの地と関係を持ってくれることを望む。
- ・ 農業を手伝ってくれる若い青年を招いて活動している。
- ・ 若い人の力を借りたい。人材が欲しい。作業が進まない。
- ・ 大楚々木の棚田が空いている。水路が残っていて、日本でも珍しい地区だ。その田を使用して、収穫したものはその人の物にする。そうすれば人がいつくだろう。
- ・ 20年前にグリーンツーリズムを始めた。数年するとうまくいかないことが出てくる。きっちりした人材が必要だ。
- ・ 少子高齢化が進行する中で企業誘致が大切だ。働く場所が大事だ。
- ・ 地域おこし協力隊を熱塩加納に呼んで欲しい。いろいろな活動を一緒にやっていきたい。ビオトープを作ったり、シイタケを栽培したり、やりたいことが沢山ある。
- ・ サルが出ている。ヤギを見るとサルは逃げていくという。ヤギをレンタルしたらいいのではないか。
- ・ EV充電スポットを増やして欲しい。支所にも欲しい。
- ・ 農業と観光をプラスして、地域を活性化させることが必要だ。農業の現状を把握することが、まず最初にやるべきだろう。
- ・ 企業誘致のために道路の整備が必要だ。磐梯町から山都、高郷に抜ける道路を作り、その道路を核に工場を誘致するべきだ。
- ・ 若者が会津に戻ってこないしUターンしても来ない。地方さびれてしまう。戻って来ても働く場所がなく給料も低い。
- ・ 地方の過疎化をどうしていくのか？
- ・ 喜多方市の産業をどうつくっていくのか？
- ・ 東高校跡地、商業高校跡地はどのように利活用していくのか？厚生会館はどうするのか。
- ・ 喜多方市の若い人が都会に出ていってしまうのはなぜか、仕事がない、魅力がないそればかりではないのではないのか、行政の役割から外れたいのではないのか、せつかくの休みなのに地域の人足などで自分の時間が自由に使えない。若い人が住みやすい環境をつくっていくことが大事だと思う。とても心配している。
- ・ 財政が減ったら財政を増やす方法を考えるべき、塩川に日本ハムで養鶏場をつくりたいという話がある。良いことだと思うがまだ決まっていない。東北7ヶ所あり、臭いもしないし、水処理も完璧、税収も増えるし雇用もうまれる。
- ・ 豊川の工業団地に工場をもってきてほしい。そうすることで人が集まってくるし、子どもも増えるのではないかと思う。是非大企業をもってきてほしい。
- ・ 喜多方市は観光で生きようとしているのか？商業で生きようとしているのか？

- ・ オーガニックビレッジ宣言はしたが、どのようなことをやろうとしているのか具体的に示されていない。農業に関わっている人たちに対してさほど説明されていないのが現状である。7月23日に環境保全型農業直接支払交付金の説明があったが、農業に携わっている実働部隊に市が一番期待するところのはずなのに具体的に何をやって欲しいかの説明がなかった。市としては、宣言はしたがイメージができていないのではないかと。
- ・ 協議会が立ち上がったが、充て職の方が非常に多かった。実際現場に携わっている人が少なかったため、具体的な施策ができあがっていないのではないかと、心配する。
- ・ 学校給食に有機栽培の米が今年の12月から採用することになったが、こういうこと事態が全然市民に伝わっていない事がある。カーボンニュートラル宣言もそうで、市民が付いてきていない。市長が何を言っているのか、具体的なことがさっぱり分からない。
- ・ 熱塩加納学校給食の取組を少しずつ市内に広めていくことが一つの方法と思う。
- ・ 耶麻農業高校が来年3月で廃校になるが、有効活用することがオーガニックビレッジ宣言と何かしら、絡められないかと思う。地元の人は耶麻農業高校がなくなることをとても残念に思っている。
- ・ オーガニックビレッジ宣言の内容を聞いていると良いことだと思うが、農業人口が減っている。農地面積は維持しなさいという。そうすると、一人に対する負荷が増える。有機農業はマンパワーが必要、宣言するのはいいが大きなはてな(?)がつく。
- ・ オーガニックビレッジ宣言をしたなら、米だけでなく、ラーメンも地元の無農薬小麦を使ったらよいのではないかと。
- ・ 宣言するのは良いが、目標を0.5%から25%にするには相当大変だと思う。
- ・ 小島のりお氏が力を入れてきた有機農法では、個人的に農業道場で若い人たちを都会から集め育成していた。佐瀬与次右衛門の会津農書の世界を活かした農業を売りにして、古典的な会津の農法に取り組み、農業経営していった方が良いのでは。
- ・ 小麦栽培が広がっている、学校給食に地元産小麦粉を使ったパンや麺を使用したい。
- ・ 昭和40年代に山都で農業大学講座を実施していた。これからは、専門家を配置して、公民館中心とか地域ごとに農業を学ぶ講座を実施し、市民農園でやりたい人や若いお母さんなど、興味を持ってもらい技術を継承していくことが大事である。
- ・ 有機農業をやりたいという方が、市に相談に行ったら、資材は農協、技術は普及者に聞いて下さいと言われてがっかりしていた。そういうセクションに有機農業専門家を配置していく、いなかったら今から育てていく必要がある。
- ・ 耶麻農業高校跡地利用について、市がしっかり検討して欲しい。田畑だけでは貸してもらえない。何とかして欲しい。
- ・ 山都支所に、そば課を設けて欲しい。
- ・ どの課もプロが少なくなっている、そばのプロ、ラーメンのプロを今から配置していかないといけない、今いる職員を育てて欲しい。
- ・ ラーメンにもっと地産地消を進めて欲しい。
- ・ ラーメン課、そば課ができた。「山都と言えばそば」そばサミットのようなイベントを復活してお客様を呼んで来てほしい。全国的にそばを宣伝してほしい。
- ・ 「オーガニックビレッジ宣言」この言葉を聞いたとき、何処かのエリアで実施するののかと思い、それなら有機農業都市宣言の方が市全体で取り組むイメージがつくと思う。
- ・ オーガニックビレッジ宣言をしたことを知らなかった。このような場所に来ない人は情報をどのようにして知るのか。情報の共有化が必要と思う。
- ・ 消費を増やそうとした時、宣伝的なものがあれば情報の共有化もできるが、そういうものが見えてこない、見える化に努めるべき。
- ・ 水稻など営農団体に声かけはしているのか。
- ・ 坂下道の駅ではオーガニック野菜を売っているが喜多方の道の駅でも出しているのか。

- ・ オーガニックビレッジ宣言はしたが、具体的な内容で進めていかないと宣言で終わってしまう。オーガニック野菜を作れば良いではなく、高くても、魅力を感じ買いたいと思う方々がいて初めて成り立つ。そういう物を作るか、ということに視点を置いて欲しい。
- ・ オーガニックビレッジ宣言は良いと思うが、宣言の説明に、有機農業は環境負荷が少なく生物多様性、地球温暖化防止に効果的・・・とあるが、私は健康問題が一番だと思っている。地球温暖化のことでオーガニックをやっているのか。
- ・ オーガニックビレッジ宣言はしたが、何を推奨していくのか、疑問を感じる。
- ・ 地方の農業の役割は非常に大きい、地域に一つのセンターを設け、農家の人ともっと深く結びつき進めていく必要がある。今のままでは無くなってしまふ、今後の農業に対し市としてはどのように取り組んでいくのか考えを聞きたい。
- ・ 学校給食でパンの日1回、麺の日1回、週に2回実施しているが外国産小麦を食べさせて欲しくない、集合米飯を考えて欲しい。熱塩加納の給食が特別栽培米に切り替わったのが嬉しい。
- ・ 地産地消を進め、健康づくりに取り組んでいけばどうか、訴える物がある。
- ・ 若い就農者に取り組んで欲しい、そうしないと今後続かないのでは。
- ・ 大規模農家を優遇しているが、小規模農家さんがやっていけるよう支援をしていただきたい。大事なことである。
- ・ オーガニックビレッジ宣言をして間もない、具体的な取組はこれからだと思う、期待する。この取組が子育て世代にもうまく繋がり、それが喜多方の魅力になったらいいと考える。
- ・ 蕎麦やラーメンの概念を変えていかないと尻切トンボになってしまう。例えば、そばガレットやパスタ風にアレンジして付加価値を付けた商品を作るべき。
- ・ 全店舗で地元産そば粉を使用しているのか。
- ・ ラーメンも蕎麦も材料は地場産業の中で作られていかないと、底上げにならない。付加価値をつけないといけない。
- ・ 美味しい山都の蕎麦を食べたいが、車がないのでなかなか行けない、そばを食べるためのバスを1便でも出して欲しい。
- ・ ラーメンが3,000円では、ついて行けない。
- ・ 旧喜多方のそば屋などをもっと宣伝して欲しい。
- ・ ラーメン課、そば課に期待することは、来年からプレDC,アフターDCが開催される。それに向けて喜多方の方から主体的に情報発信を行い、手を打っていただきたい。県に従うのではなく市として動いて欲しい。
- ・ 若松は滞在時間が長い、喜多方はラーメンを食べたら、他を観ないで素通りして帰ってしまうので、喜多方の体質を変えるべき。滞在時間を伸ばす方策を考えて欲しい。
- ・ 駒形地区では高齢化の問題で、さくらまつり等でそばを提供していたこまがたそば会が辞めてしまった。そば職人の育成を考えてほしい。
- ・ 新しいラーメン屋ができたが、ラーメン・そば課やラーメンの関係者など来店していない。イベントも大切だが現場をよく見て欲しい。県外の方が出店したが、補助や支援が無かった。今後は、補助金や支援を考えて欲しい。
- ・ リピーターがいる中で、今後店が少なくなっていく。新しい店の紹介や呼び込みが必要。インバウンドで多くの観光客が来ても、有名店や大きな店にしか行かないことがある。ラーメン客の入れ込みの現状(店別)を調べて欲しい。
- ・ 県外から来ている客が、ラーメンを食べにきても食べきれていない。特に連休中は、有名店にしか行かない。
- ・ ラーメンの日を制定したのは良いが、その日に定休日として休んでいる店はどうなのか？営業すべきと思う。

- ・ ラーメン・そば課が出来たなら、全てにおいて現状を確認すべき。
- ・ 3,000円のラーメンの販売実績は？また3,000円のラーメンの食材について教えて欲しい。また周知がまだまだと思う。提供できる店には、のぼりを上げたり分かりやすい表示が必要と思う。3,000円のラーメンの良い所を現状の喜多方ラーメンに取り入れてみては？
- ・ オーガニックの意味を知らないのでは？意味をしっかりと伝えて欲しい。またPR不足ではないか？わかりやすく広告して欲しい。
- ・ 現在のオーガニック取組面積について。オーガニック品を目にする機会が少ない。
- ・ JASは厳しくオーガニックビレッジには参加できない。管理が大変で、生産者の高齢化、若手が育たないときつのが現状である。農家へのサポートが必要。土地、機械購入補助、世代交代がうまくいっていない。関係団体とのしがらみもある。また外国人労働者を受け入れしないで、地元の雇用をお願いしたい。農家の現状を確認し市民に伝えて欲しい。問題を周知し市民から応援を頂いて欲しい。
- ・ 食堂を経営している。喜多方ラーメンの日が制定されたことは感謝している。後継者問題は難しいと思っている。課題も多くある。レトロ横丁などのイベントでも、積極的に喜多方ラーメンをPRしてください。
- ・ 後継者問題で、まちおこし協力隊はどのように活動しているのか？喜多方ラーメンのまちおこし協力隊は、今後の移住定住はどうか？
- ・ ラーメンの映画があるみたいだが、市として何らかの形で関わっているのか？
- ・ 佐野市の取組を実施してみてもどうか？
- ・ さまざまな喜多方ラーメンがある。喜多方ラーメンの定義を作ってみたらどうか？
- ・ 老舗会などの支援だけでなく、市全体のラーメン、そばの支援をお願いする。老舗が辞めていく現状で、もっと市民がラーメン、そばを応援するのが必要。
- ・ 喜多方市民に対しラーメンを多く食べてほしいと言っている。かたや健康問題(塩分制限)に注意して下さいなどと言っている。ラーメン単価も高くなっていて市民が気軽に行けなくなっている。
- ・ ラーメンはどこにターゲットしているのか？ラーメンを食べに来るまでいろいろ過程があると思うが、どこに置いているのかわからない。
- ・ 市においてラーメンは観光に繋がっていると思っているが、私は繋がっていないと思う。市は観光地として考えているのか？
- ・ 喜多方市には観光地として優れている所が多くある。観光資源として活かせる活動をして欲しい。現状、資源活用できていない。市の本気が感じられない。ツアーなどで観光客が多く来ているが、ラーメン資源では今後難しいと感じる。それらを含めて、喜多方市の今後の方向性を市と議会が示していく事が大事である。
- ・ ラーメン店の後継者問題が進んでいる中で、市としてどのような対応しているのか？ラーメン文化が衰退するのがもったいない。後継者がいるのといないのでは、まったく状況が違う。
- ・ 喜多方ラーメンが一番美味しいと思う。ラーメンに関わる材料を地元生産者が直接提供できるように考えて欲しい。現在ラーメン屋だけが儲かっているように感じる。材料を地元産で使って頂くと市民がもっと盛り上がっていくと思う。生産者から店舗まで全てが関われるようにして頂きたい。
- ・ ラーメン、そば課ができたが、現状としてイベントでしか対応できていないと思う。今後はそれ以外にも力を入れて欲しい。
- ・ 山間地など遊休地が増えていくなかで、小麦やそばを作れるような環境にしてほしい。
- ・ 地元(熱塩加納)では取り組んでいるのに、市として今更と感じている。
- ・ 企業と環境活動などの連携を進めて欲しい。オーガニックなど本当の自然を大切にすることを活かせばツアーなど観光客が多く入ってくる。もっと力をいれて取り組んで欲しい。

- ・ ラーメンなどの資源では今後の観光客拡大は難しい。まずは議会として方向性を示していくことが大事です。ぜひおこなってください。
- ・ 市内には、観光資源が沢山ある。皆さんが知らないだけ。隠れた観光資源を活かしてください。
- ・ 喜多方の場合、農業がしっかりして先頭になってやっていかなければ。農家の方がまずよくなって、ブランド化や拠点づくりで農業の生産所得が上がるのが大事だと思う。農家の所得が上がり、購買意欲が上がらないと喜多方はよくなると思う。
- ・ 農業の会社化（大規模経営）も進んでいる。それはそれでよいが、一番肝心の農家の方が、置いてけぼりになってはいないか。長男が安心して後を取れるようにすること。
- ・ 景気に左右されない男子型企業が必要だと思う。一部上場企業、田村市や西郷村の例。
- ・ レゾナック（昭和電工）だって地元採用は1～2人だと聞いている。
- ・ オーガニックを推進する土壌が喜多方市にはある。ある程度の規模の地区を設定して、そこから取組を広げていけるかがポイントだと思う。
- ・ 宣言するだけでなく、具体的な支援や人材の呼び込みなど今後の取組に注目したい。
- ・ 農業まつりなどのイベント時などに有機の農産物をPRしてみてもは？
- ・ 成功事例のモデルを示さないと新規参入が期待できないのではないかな？
- ・ 米国では40年ほど前から専門のスーパーがあった。食文化の違いもある。宣言だけで終わらないでほしい。
- ・ 農業を営んでいるか完全無農薬は絵に描いた餅。環境負荷の影響がどの程度かわからない。
- ・ 学校給食の米が特別栽培米に切り替わったのはありがたい。若い農家は園芸作物の方に流れている印象があるので、米農家さんへの支援もお願いしたい。
- ・ 喜多方ラーメンの再定義が必要ではないか。特徴と他のご当地ラーメンとの比較、情報発信の充実をお願いしたい。
- ・ そばのブランド再生の方が心配。
- ・ ラーメンブランドプロジェクトの会議では耕作放棄地を活用して地元産小麦を栽培し、麺、パンに利用したいとの話があった。積極的に行政も関わってほしいとの意見があった。
- ・ 観光客にも市役所駐車場を一部利用してもらうのはどうか。有料で税収にもなる。
- ・ 有名店がなくなるのはショックだった。次世代育成は重要。
- ・ 特別栽培米を生産しているが、利益があまり出ないので、若手農家が離れている現状がある。国に要望してほしい。
- ・ 差別化をどのように図るのか。販路開拓の支援は必要だと思う。有機農業に対する意識の醸成はまだだと感じる。
- ・ 宣言自体は良いのではないかな。まずは学校給食から取り組んでみては。
- ・ 説明会等を開催しながら段階的に取り組むのが良い。新潟県佐渡市の減農薬・減化学肥料の取組を視察して勉強になった。
- ・ 一つの懸念として、化学は悪で、自然は善だ、というような風潮にはならないように。
- ・ あらためて喜多方ラーメンの特徴を整理する必要があると思う。そばは値段が高いので若者に受けるかどうか。
- ・ 人口減少で大変だと思うががんばってほしい。小麦栽培に取り組んでいるが、学校給食から始めてみては。
- ・ 全国的知名度があるのでがんばってほしい。他地域の店舗も研究している。ブランドに甘んじることなく奮起してほしい。
- ・ 専門的な分析ができる人や組織の必要性を感じる。
- ・ 地元産そば粉を提供できるように補助金を出してほしい。国の補助金の減額で厳しい。

喜多方市議会産業建設常任委員会

委員長 齋藤 仁 一
委員 菊地 とも子
委員 齋藤 勘一郎
委員 齋渡 部 一

副委員長 山後 佐
委員 口藤 藤
委員 文誠 忠
委員 章司 孝